　令和４年度第２回鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会　議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 日時： | 令和５年（2023年）１月18日（月）  10時00分～10時50分 |
| 場所： | オンライン会議  （Microsoft Teams） |

議事次第

１　　開会

２　　令和４年度事業報告（NPO法人かまくら冒険遊び場やまもり）

３　　令和４年度事業報告（こども支援課）

４　　質疑応答・意見聴取

５　　閉会

委員出欠（敬称略）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 氏　名 | 選出団体等 | 出欠 |
| 礒部　久仁子 | 鎌倉市立小学校長会 | 出 |
| 河野　匡孝 | 鎌倉市社会福祉協議会 | 出 |
| 志村　直愛 | 東北芸術工科大学　デザイン工学部　建築・環境デザイン学科 | 出 |
| 髙麗　宏子 | 鎌倉私立幼稚園協会 | 出 |
| 出川　克己 | ＮＰＯ法人　鎌倉市市民活動センター運営会議 協働事業推進部会 | 出 |

松本次長

おはようございます。

こども支援課担当課長松本でございます、よろしくお願いいたします。

ただいまから令和4年度第2回鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会を開始いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

この事業につきましては、令和元年11月から開始しまして、早いもので4年目を迎えます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業開始当初に予定していた通りにならない部分は多くありましたが、子どもたちが自由にのびのびと遊ぶことができる遊び場の提供を目指し、協働事業者とともに実施しているところでございます。

今後も、これまでの運営で出てきた課題等に取り組み、事業内容がさらによりよいものとなるよう実施してまいりたいと思います。

本日はオンライン会議ではありますが、忌憚のないご意見ご提言をいただきますようお願い申し上げます。

本日ですが、委員5名中5名のご出席をいただき、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会設置要綱第5条第2項に定められた定員を満たしていることをご報告申し上げます。

それではここから進行は志村委員長にお願いできればと思いますよろしくお願いいたします。

志村委員長

よろしくお願いいたします。

それでは皆さん改めましておはようございます。

オンラインに慣れてるのは大学とか、意外に市民の皆さんの方が慣れていて、役所は施設の問題だとかいろいろ大変なとこあるようでございます。ご苦労を偲ばれるところですが今日はどうぞよろしくお願いいたします。

この鎌倉冒険遊び場も4年を過ぎてということで、ずいぶん時間がたっております。

度々オンラインの会議になってしまっておりますので、最初の頃は皆さんとお会いできたんですが、それ以来対面での機会がなくて皆さんとはお会いできておりませんけれども、活動の方は順調に進んでいるようで、鎌倉市内においても役所と市民グループとの間で取り行っている協働事業としては、なかなか注目すべき案件ではないかなというところです。

これも、皆さんのいろいろなご意見をいただきながら進めている一つの大きな成果ではないかな、というふうに思いますが、今日4年目の区切りというところで朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。どうぞそんな事情でございますので、今日も忌憚ないご意見をたくさんいただいて、運営を支えていただければありがたいなというふうに思っております。

それでは次第に沿って進めていきたいと思います。最初にこども支援課から本日の委員会の概

要についての説明をお願いいたします。

事務局

では、私の方から説明させていただきます。こども支援課担当係長の中橋と申します。よろしくお願いいたします。

では、本日の概要についてご説明いたします。まず、本委員会の審議会の趣旨ですが、本市における冒険遊び場協働運営事業を推進していくにあたり、幅広いご意見をいただくことを主たる目的として実施をさせていただいております。

本日は、令和４年度の事業につきまして、市とともに協働事業者としてお願いをしております NPO法人かまくら冒険遊び場やまもりと、こども支援課からそれぞれご報告をした上で、委員の皆様からご意見等をいただくという形で進められればと思っております。

よろしくお願いいたします。

以上です。

志村委員長

はい、ありがとうございます。こども支援課からの説明でしたが、これに対しまして何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

それでは、これより次第１に入ります。鎌倉市冒険遊び場協働運営事業の事業報告に移りたいと思います。

それでは事務局の方からお願いします。

事務局

では、説明をさせていただければと思います。令和４年度事業につきまして、まず初めに、協働事業者であります NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもりの皆様からご報告をいただきまして、その後こども支援課からご報告をするという形で進められればと思っております。

なお質疑の応答につきましては、両者の事業報告が終わってから行わせていただければと考えております。よろしくお願いをいたします。

では、まず NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもりの皆様、よろしくお願いいたします。

協働事業者

おはようございます。かまくら冒険遊び場やまもり理事長の坪井と申します。

本日は３名でご説明差し上げたいと思っております。広報担当の東樹と、会計担当の松山です。よろしくお願いします。

今画面共有をさせていただいてると思うんですが、そちらの方ご覧いただけますでしょうか。

では、令和4年度の事業報告に移りたいと思います。よろしくお願いいたします。

本事業も今年度やっと２年間通年で開所することができました。

コロナ禍であることは前年と変わらず、周囲の感染者数が日々変わる状況でしたけれども、スタッフの対応や室内での声かけを変えるなどして日々、臨機応変に対応した1年となりました。その中でも子どもたちは変わらず元気に遊んでいます。

また、地域の大人の方と一緒に遊び場作りができたり、地域の輪が少し広がったと感じる1年でありました。

それでは今年度の成果をご報告いたします。次第に沿ってご報告いたしますので、資料をお読みください。

事業実績と成果、利用者数からお伝えいたします。

細かくは資料を見ていただいておりますので割愛させていただくところが多いかと思いますがご承知おきください。

3ページ目今年度は予約なしでの来場、お昼時間では食事ができ、火水金土曜の週4日開催しました。

今年度の新しい試みとして、夏休みは木曜日も開催し、火曜から土曜の開所となりました。

利用者数は表で示しました通り、昨年度からの比較という意味でのお伝えをいたします。全体的な数で言いますと、1.2倍増となっております。

3月末日には開所日日数が201日予定、来場者数は1.2倍という換算ではありますけれども、8,800人程度の人数利用があるのかなというふうに想定しております。

続いて団体利用なんですが、団体利用の方も若干ではありますが増加傾向にあります。

内容として自主保育団体の活動日以外の日に利用していただいたり、隣に保育園があるんですけれども、そちらのお散歩コースとして利用するということもありました。

4ページ目に移ります。平均利用人数です。

今年度は小学生の利用が急増し、約3.8倍となりました。中学生利用も若干増えております。

繰り返し遊びに来て卓球をしたり、漫画を読んだり、ゆっくりと友達と過ごす姿が見られました。中学生の居場所も必要であるということがわかりました。

5ページ目ご覧ください。夏休み利用です。

夏休み中に子どもの利用数は、昨年と比べ約1.2倍の増加が見られましたが、大人の利用数は減少しています。夏休みは特に子どもたち同士で来場していることがわかりました。

続いて6ページ目です。

6ページ目については、兄弟利用がいくつあるかということを集計いたしました。

こちらが未就学親子+小学生の利用がこのぐらいあったというような数字になりますので、ご参照ください。

続いて7，8ページをご説明いたします。

学年別の集計です。学年別で見ると、1年生と6年生の利用数が多く見られました。

1年生が未就学児の頃から利用していた子や、大人の目があり安心という点から利用が多くなっております。

また6年生は開所当初は3年生、初めは前のようにおもちゃがないといった声もありましたけれども、今では外でも中でも自由な発想で思い切り遊ぶようになりました。

また夏祭りのイベントなども主体になって考えたり、小さい子と一緒に遊ぶのもとても上手で、遊びのリーダーとなって活躍してくれています。

9ページは夏休みの利用状況をまとめています。

こちらはざっと見ていただければおわかりかと思いますので割愛させていただきます。

10ページ目です。今年度の新しい取り組みをご説明いたします。

まず第1に、夏休みの木曜日開催をいたしました。

2番目、夏休みから地域の保護者の方々にサポートスタッフとして勤務に入っていただきました。サポートスタッフさんには、一緒に来場したわが子と周囲の子どもたちの見守りをお願いいたしました。

サポートに入っていただき、私達も大変助かりましたが、地域のお母さんたちですので、お友達が一緒に来てくれたり、何々ちゃんのお母さんだと子どもたちからも声をかけられたりして安心感に繋がったと思います。

夏休み以降継続している方もいて、子育て親子が当事者として遊びに来てくれていること、広がりを感じます。

3番目、夏休みには NPO センターを窓口にボランティアの募集を行い、14名の高校生の方に来ていただきました。

びしょ濡れになって水遊びをしたり、とことん遊びに付き合ってくれる大人ではないお姉さんの存在が子どもたちに大人気でした。

続いて4番目ですが、親向けのイベント開催では初めての幼稚園選びと題して、在園・卒園児保護者の実体験を聞くイベントや親子ヨガを開催いたしました。

初めての幼稚園選びでは、一度に複数の園の話を聞けることや在園・卒園保護者からの実体験を聞けるため、大変大好評でした。

パネラーの方からも他の園の様子を知ることができて楽しかった、情報交換の良い機会となったという意見をいただきました。

私達の知人などをパネラーとしてお迎えし、周囲の方々に繋げることができ、大変貴重な機会となりました。

また、親子ヨガはすぐに予約が埋まる人気イベントです。

先生は遊びに来てくださっていたママさんで、子どもたちのために何か協力したいという思いからお声掛けいただき、実現した企画です。

こちらも、お母さんもすごくいい雰囲気ですし、お子様もいらっしゃるので実際のイベントはとても柔らかい雰囲気の中行われています。

5番目です。

地域イベントについてですが、こちらちょっと盛りだくさんになりますので後ほど写真と併せてご説明いたします。

具体的な新しい取り組みは以上になります。

ここで追加資料として、冒険遊び場梶原の敷地をご案内したいと思います。

実際に、開所する前に、こんな敷地でこういうふうに利用したいというご説明を差し上げたかと思うんですが、そちらに沿った形で、どんなふうに今使われているかというのをお伝えしたいなと思って資料を作りました。

ではご案内いたします。

まず１階の配置図からご説明いたします。入り口からの矢印から話をお伝えしたいと思いますのでご覧ください。

玄関から入りまして、左手に幼児図書室。やま部屋といいます。右手に工作木工室、もり部屋と称しております。

玄関ホールになりますけれども、玄関の飾りであったり写真をご覧いただければと思うんですが、玄関にはコマや羽子板、かるたなどが置いてあることもあり、事務所も近いため、いつもホールは賑やかです。

この左上の写真の飾りは今でも飾っているお正月飾りです。駒も羽子板もここに飾っています。

コマ大会が始まったり、カボチャのお化けが登場していたりして、どこでも遊び場になります。

3周年のお祝いには子どもが、私達がやると言って受付をやってくれました。

左手に入りますとやま部屋です。ここではゆっくりとした時間が流れます。漫画や本、絵本が置いてあり、保護者用の雑誌も置いてあります。

小さな子のおもちゃが少しあり、保護者もゆっくりしながら一緒に過ごすことができます。

ここで高学年の女の子が小さな子と上手に遊んでいると保護者たちは安心して、またお喋りが弾みます。

またここの場所に、青空自主保育や地域活動の情報も取れるようチラシや掲示物が置いてあります。

これをきっかけに青空自主保育に通い始めた方もいます。

1階の両部屋から外に出ることもできます。

続いての写真です。コンパネで基地作りをしている女の子たちがおります。ここで基地作りをしていたら、ちょっと狭い部屋ですのでスペースが不足してしまい、ここから外へ広がっていって外で遊びを続けたこともありました。

その外では夏になるとウォータースライダーや水遊びも人気です。

やま部屋から出ますと、今度は外の方に展開していきます。階段を上がると土遊びエリアがあります。夏には日差しが強くなりますので日よけをつけて遊びます。

ここでは、おままごとや、穴掘り、水も混ぜてドロドロになります。小さい子も、高学年の子もみんな遊びます。

夏休みには自転車もいっぱいになる状況になります。これでも看板にありますようにきちんと奥から並べてねっていうことを置いていますので、子どもたちは綺麗に自転車を並べて遊んでくれます。

続いて山をご案内いたします。

先ほどの土遊びのエリアから山への階段を上がると、写真のように平らなところに広がっていきます。

そこからまた右手に曲がり進んでいくと、大きな木がありブランコを設置しています。とても眺めが良くて子どもも大人も何度も乗りたくなるブランコです。

さらに奥へ進むと、桜の木があって、そこにある遊具に竹を結んだり、ブランコに乗ったりかけ回ったりしながらのびのびと遊んでいます。

続いて2階のホールです。

2階のホールは当初なかなか見る目が行き届かないので、利用はどうだろうということがあったんですけれども、子どもたちがもてあそんでしまう状況ができてしまったというのもあり、私達も検討して開放することにいたしました。

ここは本当に子どもたちに愛されている場所で、写真のように、卓球、縄跳び、ダンス、こま回し、積み木、お化け屋敷、チラシの仕分けなど、何でも真剣に楽しんでいます。

とても広い屋内のホールがあることで、元気すぎる子どもたちもみんなで遊べたり、いろんな遊びに対応できます。

屋外も広いためスタッフが見守ることのできる範囲で遊びを展開しています。日々の変化や子どもたちのやりたいをできるだけ叶えたいと思い、一緒に考えながら遊びを行っています。

敷地のご案内は以上になります。

少しお話が変わるんですが、チラシのご紹介をしたいと思います。

お知らせは、小学校全校配布、幼稚園・保育園の配布や配架により、遊び場があるよということを子どもたちに届くよう、広くお知らせしています。

また、子育て中の保護者へは、鎌倉市のLINE 配信、近隣の方向けには町内の掲示板に、月ごとの情報や様子をお知らせしています。

このようにカレンダーにしたり子どもたちの様子の写真をつけております。

最後のページ、夏休みの利用案内です。

小学1年生とその保護者に届くよう遊び場で配布したミニちらしです。

長い時間を過ごす子どもたちには時間の流れや持ち物、保護者には利用のお願いを記載することで、子どもだけでも安心して過ごせるよう周知をいたしました。

LINE 配信はとても効果的で、自分の欲しい情報カテゴリーを選択して得ることができます。配信された日にはイベント申し込みの電話がたくさんあります。

このような形で、必要な情報を拾っていただけるように市と協働し、広報を行っております。

続いて報告資料に戻りまして、松山からご説明いたします。

13ページになります。イベントの実施内容と参加者数をまとめております。

イベントは遊び場で開催する子育てイベント、地域イベントと、市内の公園などに出張する出張冒険遊び場の3種類があります。

13ページは子育てイベントについてです。こちらは乳幼児親子を対象に月に2回、平日午前中に開催しています。

季節に応じた遊びを通して、同世代の子たちには貴重な場となっています。

次に16ページになります。地域イベントは2回開催いたしました。

こちらは、唯一大人だけで来場できる日となっており、地域の方との交流を目的としています。夏には昨年表好評だった、子ども祭りを再度開催いたしました。今年は、子どもたちたっての希望、お化け屋敷とビンゴ大会をメインにしました。

お化け屋敷の設営や演出はもちろん、様々なところで子どもたちのアイディアが形となってきました。

子どもたちの宣伝力も素晴らしく、手書きのポスターやチラシを作ってお知らせしてくれた結果、多くの子どもたちが集まってくれました。

子どもたちの誘いを受けて深沢小学校の磯部校長先生にも来ていただき、子どもたち大変喜んでおりました。写真は15ページです。

手書きのポスターや、浴衣はお母さんやおばあちゃんが着付けに駆けつけてくれたりと、とても張り切っていました。

続いて16ページです。地域イベントであるオープンデーを12月に開催いたしました。

山の上では常連のお父さんが中心となって、小さい子から大人まで一緒に遊具を作ってくれました。

16ページの左の上にある写真がそちらになります。

このお父さんは、夏にウォータースライダー作りにも携わってくれたお父さんなのですが、今回は何を作るかという計画の段階から、携わっていただきました。

子どもたちのためにという思いはもちろんですが、自分も楽しいと言って遊び心を持って参加していただけて、また次へと繋がっていきそうな感じがあります。

　材料は地域の材木店さんに提供していただきました。

左下の写真ですが、室内ホールでは子どもたちが運動会の出し物を披露する、子どもステージを開催してくれました。

こちらは高学年の子が中心となって、準備、リハーサル、司会進行まで行ってくれました。

ちょっと照れている低学年の子に混ざって一緒に踊ってあげたり、5年生の後ろで6年生が合同のソーラン節をしてくれたり、運動会とはまた違った感動がありましたっていう保護者の方からの意見もいただいております。

その他にも、中学校の深沢中学校の卓球部の生徒が卓球を教えに来てくれたり、火おこし体験などを行い、子どもも大人も普通に遊ぶことのできる1日となりました。

このようにイベントとしては1日限りではありますが、その内容は日々の遊びややってみたいという思いから生まれています。

続きまして17ページで出張冒険遊び場についてです。

今年度は4回の開催が決まっており、既に2回実施いたしました。今までは市内各地に遊びを届けることを目的としていましたが、今年度からは地域の方の協力を得ながら、地域の人や環境を生かした内容を行うことにも意識しています。

10月の海浜公園、12月の広町緑地ともにそれぞれの地域の方の協力を得て、地域性を生かした内容で多くの方に参加していただくことができました。

出張冒険その場では、普段遊びに来れない方が来たり、遊び場を知っていただくことも大切なのですが、地域の遊び場として広がって根付いていくためには、地域の方と一緒に考えて一緒に作っていくことが大切であると思っています。

その地域に住む様々な人がそれぞれの立場で関わることで、地域の居場所となって交流の場になり、知識の継承にも繋がります。

このようなかつてはあった地域の居場所を、私達が遊びを通して広めていけるようこれからも努めていきたいと思います。

また協働事業としては4回の開催でしたが、4回では実施できない地域もあるため、法人で助成金を活用して、出張冒険遊び場を3回開催し、多くの方にご来場いただきました。

以上、イベントについてのご報告となります。次のページに写真があるので、あわせて見ていただけたらと思います。

続きまして20ページになります。昨年度の課題における今年度の成果をまとめています。

既に説明させていただいている内容は割愛いたします。

上から地域交流・多世代交流の活性化の成果として、今年度は町内会や支援センターと協力して地域の場作りを一緒にできるよう、交流を図りました。

これによって支援センターでは昼食を取ることができないので、午前中は支援センターで遊んで、お昼を食べに遊び場に来て、そのまま遊んでいくというケースも見られました。

また法人の活動として、地域コーディネーターさんと連携して、放課後かまくらっ子深沢・山崎の二つの小学校に遊びを届けるプログラムを実施しております。

地域コーディネーターさんとは、地域全体で子どもを育てる環境作りの必要性を共有しながら、日々情報交換を行っています。

来場者のニーズの拾い上げとして、子ども大人それぞれにアンケートを実施しました。こちらは継続して行っています。

アンケートについては後ほどご説明いたします。

21ページです。

今年度第1回推進検討委員会では、駐車場利用の検討と午前中利用の推進が課題となっていました。駐車場利用については、引き続き支援課さんと検討を進めています。

午前中利用についてですが、未就学児親子が集う場所の選択肢となっています。

また、就学前から親子で利用していた保護者からは、1年生になったときに子どもだけでも安心して遊びに行かせられるという声を非常に多くいただいております。

新1年生は新しい環境で不安や疲れも出ている子が多く、そういった子たちが今までと変わらない環境でのびのびと過ごせている様子からも、年齢問わずに利用できる地域の居場所として必要性を感じています。

また、学校へ足の向かない子どもの利用、そういった子どもを持つ保護者からの問い合わせもありまして、誰でも行ける場所としてのニーズも感じております。

このようなニーズから、これからも必要な人に必要な情報が届くように広報を強化したり、イベント内容の工夫を行っていきたいと思っております。

22ページ、安全管理についてです。こちらは昨年に引き続き日々の安全管理とコロナウイルス対策を徹底しています。

また、今年度は私達のスキルアップとして毎年受講している講習に加えて、野外救命救急や保育士免許を取得した者がおります。日本冒険遊び場作り協会の方に講習を行っていただいたり、様々な面から子どもたちを守っていけるように努めております。

続きまして、順番は前後してしまいますが、アンケートについてご説明させていただきたいと思います。

来館している子どもの内訳を見ると、1年生と6年生のが多くなっています。

1年生は開所時は幼児で、保護者と一緒に遊びに来ていた子どもたちです。

6年生は、開所時は低学年、年上の兄弟がいて、子ども会館時代にもその兄弟たちが遊びにきていたということもあり、この場所が子ども会館時代も含めて、子どもたちの遊び場として長く定着していっていったということが分かりました。

子どもの遊び場というものは単年度だけではなく、複数年度で計画的に整備していくことが大事なんだなということも言えると思います。

3ページ目では、友達という言葉がキーワードとして多く出てきているんですけれども、来たことのある子がその友達を誘ってくるケースが多いです。

何かやりたいことがあってくるということもあるんですけれども、友達と遊びたい、ここに来れば誰かがいて遊べるだろうと思ってくる子が多いです。

先日も3年生の子が、同級生の子が来たいと言っているから、と引き連れてきてくれたりもしました。

高学年になると、1回来てみて、友達がいなかったら、一度その辺のあたりを探しに行ってからどこかで落ち合ってから遊びに来るというケースもよくあります。

開いてほしい曜日を聞いた部分では、その質問からはどの曜日もという結果になっており、毎日開いていて、いつでも来れる場所を子どもが求めているということがわかります。

特別な場所というよりも、いつでも空いていて日常の一部としてあってほしいという気持ちが出ているようです。

また常連の子どもは開いてる曜日をしっかり覚えてるんですけれども、お休みの日に、木曜日に来てしまったりして、間違ってきてしまったという声も聞かれるので、そうすると、ごめんねという話になったりもします。

後半には、ここの好きなところを聞いてみました。

好きなところでは自由に遊べるという回答が多数ありましたし、子どもたちが遊び場を自由に主体的に過ごせる場所として認識してくれているということがわかりました。

逆にここの嫌なところはありませんという回答が、圧倒的多数で子どもたちがちょっとアンケートのときに気を遣ってくれてるのかわかりませんけれども、とても嬉しい回答でした。

おやつが食べられないことに不安を感じている子どもも少なくないんですけれども、これについてはアレルギーの対策やコロナの状況を踏まえまして、再三検討を重ねていますが、今は隣の公園で食べてくるという流れが子どもたちの中で定着してきています。

戻りまして、大人のアンケートについてです。

来場目的というところです。子どもが来たいと言ったという回答が上位に入っていまして、親が連れて行きたい場所というだけではなくて、子どもの意思があったことがわかります。

また、子ども同様に、遊び場に求めることというのは、 自由記述などには、自由に遊べるとか主体性を大切にしているなどの回答が多く、外遊び、大人の見守りがあるといったワードも多く見られます。

外遊びもできて自由に過ごせるだけではなく、そこに大人の見守りがあることが保護者の安心にも繋がっているようです。

アンケートを総括してみると、いつでもやっていて、室内も外もあり、自由に遊べて、大人の見守りがある。そんな公共施設が市内の各地域にあると、保護者にとっても子どもにとっても充実した状況と言えるようです。

アンケートを実施して、遊び場の現状はおおよそニーズと一致しているようだということが分かりました。

反面、されていない点は以下のとおりで、毎日開館してほしい、近所にも遊び場がほしい、ランドセルのまま利用ができると助かるといった点でした。

1点目の、毎日開館しているというところですが、子どもからも大人からも望まれていますが、現状は週4日にとどまっています。これは鎌倉市の方にも、ぜひ検討いただきたい部分なんですが、それを実現できるとなった場合に備えて、私達スタッフのスタッフ体制も整えていかなければなりません。

そこを見据えて、地域の方を中心にサポートスタッフを募集してきました。救命救急講座やその他訓練もお誘いして、非常時の対応も学んでいただいています。

地域のスタッフは増えているんですけれども、多世代のスタッフという点はなかなか取り組めていない点でして、子育て世代だけではなくて本気で遊んでくれる若い世代の必要性を感じています。

2つ目の、鎌倉の各地域にという部分は、これからの目標として鎌倉市と考えていきたい点なんですが、今のところは出張冒険遊び場という形で、様々な地域に出向いています。

先ほど申し上げたように、地域で地域の方が中心となった遊び場づくりが盛り上がっていくことにも期待しています。

3つ目の、ランドセルのままの利用については、預かり施設ではないということもあり、なかなか受け入れが難しいのが現状になっています。ただ、要望は多いです。その点は保護者や鎌倉市と相談しながら、よりよい仕組みを考えて、子どもの希望がかなえられれば実現していきたいと考えています。

これに関連した一例ですけれども、先日家に帰ったけれど、いるはずの親がいなかったと言って、不安そうに遊びに来た子どももいました。そういった場合は無理に返すのではなく、一度受け入れて時間を置いてからもう一度帰宅させてみるといった対応を取りました。開館している日でよかったなとスタッフ間で話をしていました。

このようなエピソードから、毎日やっていて自由に遊びに行ける場所は、子どもや地域の安全安心にも大切な役割を果たせるということを実感しました。

以上、アンケートから読み取れることをお話させていただきました。

最後に、今後の課題と今後に向けてお話いたします。

アンケートでは1年生利用が多かったことや、先ほどお伝えしましたこと幼児から小学～高校生までの子育て情報の連携や、交流の場が必要であり、遊び場はその場になりうると考えております。

孤立しない子育て環境づくり、取り残さない環境づくりとして、未就学の子どもと保護者が利用する午前中の利用数を上げることが必要です。

そして、今後はイベントの開催はもとより、周囲の方々との連携を推進いたします。

また保育園や幼稚園への周知、不登校の子どもたちはこんなことが、こんなところがあるよ、誰でも来れるよということを知ってもらう活動を進めていきます。

2点目、地域交流・多世代交流の活性化ですが、地域で子育てを行える環境作りということで毎年の課題になっております。

今年度は保護者やボランティアの方々に参加していただきながら、子どもと一緒に遊んで遊び場を盛り上げていただきました。

このような環境はとてもよかったと思うので、どんな環境が必要であるかといったことを、子どもたちを取り巻く環境、方々と一緒に共有をしていきたいと思っております。

3点目の情報を手に入れやすい環境作りですが、上の2点を行うことで広める場が多くなり、知る機会に繋がると考えております。

また、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わろうとしています。自分で体験することと関わりを持つことが必要であり、自分自身の生きる力に繋がると考えます。

しかし、その機会や場が少ないのが現状です。

そういった場として梶原の遊び場や、鎌倉の地域で開催する冒険遊び場は子どもたちの遊ぶ環境を保障して、安心していることのできる居場所として続けていきたいと思っております。

次の24ページでは、その展開をイメージ図としました。

子どもたちを真ん中に、子どもたちと保護者を取り巻く環境を地域の大人や学校、かまくらっ子、行政など様々なところと連携しながら、梶原を拠点に環境作りを進めていきたいと考えております。

続いて25ページですがこの方向性を活かし、3年後5年後の目標として開所日数や冒険遊び場の開催数を増やし、継続していくことを目標に挙げます。

また日数の増加だけではなく、内容の質を上げること、未就学児から小中高校生までの本音をすくい上げられる場となりたい。

そのためにこども支援課と協働し、課題解決をしていきたいです。

コロナ禍での生活がベースとなり、子どもたちの受け取り方も敏感であり、より一層安心して過ごせる場が必要と感じる1年でした。

子どものありのままを受け入れて、心も体も健やかに過ごせる遊び場を提供して、保護者や子育て世代も安心して買うことのできる場として、子どもに関わる全ての方々と協力しながら、発展させていきたいと思っております。

以上、今年度の事業報告とさせていただきました。

地域イベントで遊びに来ていただいた、河野先生、出川先生、磯部先生にもぜひご感想やアイディアをお聞かせいただけたらと思っております。

ありがとうございました。

事務局

では続きまして、こども支援課からのご報告とさせていただきます。資料の2をご覧ください。

活動の内容につきましてはやまもりさんが実態に合ったご説明いただいたと思っておりますので、こども支援課からは利用者数、事業の費用、そして今後の目標取り組みという三つまでに絞ってご説明させていただければと思います。

一部重複をいたしますがご承知おきください。

まずは利用者数について説明させていただきます。1ページをご覧ください。

令和4年度の4月から11月までにおける利用者数を示しております。1ヶ月当たりの利用者数平均775人。そして1日当たりの平均利用者数44人という形になっております。

小学校の夏休みの期間中につきまして、今年度は木曜日の開館ということもいたしましたので月間の利用者数が1,000人を超えたという状況がございまして、夏休み期間中の子どもたちの居場所として一定の役割を果たしたものというふうに考えております。

次のページ、2ページをご覧ください。月別利用者数の過去4ヶ年の推移を表したものとなります。

下にある表が、各年度のひと月当たりの平均利用者数を示しています。4年度につきましては、11月末までの実績をもとに算定をしておりますが、前年度と比較をしまして、約1.3倍というような数字になっているという状況でございます。

今年度の通年利用者数を7,000人としたいという形で目標としておりましたが、やまもり様から先ほど説明もいただきましたが、現在11月末までの状況から判断しすると、どうやらそれは超えられそうだという状況でございます。

3ページ目に進みます。月別の1日当たりの平均利用者数を示しております。同じように下の方の表には、各年度1日あたりの平均人数を示しているという状況でございます。

続きまして、4ページ目および5ページ目ですが、地域別の利用者数を示したものということになっております。

4ページ目は令和3年度および4年度の比較ということで各地域別の利用者を示したグラフということになっておりまして、5ページにつきましては、令和4年度の7月から11月にかけて、午前と午後に分けて、地域別の利用者数を示しております。

やまもりさんからのご説明にもありました通り、深沢地域の利用者が大部分を占めており、そして小学生の利用者が主な午後につきましては85%以上深沢地域という状況になっているというところでございます。

次に、事業費についてご説明をいたします。こちらにつきましては、こども支援課にて管理執行を行っている施設管理費と、やまもりさんの方へ交付しましてそちらで支出を行っていただいてます負担金という二つに分けてご説明をさせていただきます。

まず6ページです。令和4年11月までの間、施設管理費の支出状況をまとめたものとなっております。

続きまして7ページ目をご覧ください。

各年度の支出を比較しております。施設の管理費につきましては、光熱水費が値上がりをしたということによって多少の執行増となるものが見込まれておりますが、それ以外の部分についてはおおよそ例年通りとなる見込みと考えております。

8ページをご覧ください。

やまもりさんからのご報告内容をもとに、負担金支出状況についてまとめたものとなります。負担金にはスタッフの人件費、消耗品費、イベントの費用等が含まれている状況でございます。

年度ごとの比較については、次のページをご覧ください。

9ページです。

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止という観点から全庁的な対応ということで、イベント開催に関する費用の計上を見送るという対応をとりましたが、今年度はイベント費用を含めた金額を負担金として予算措置をできたということがあります。

そして、そのイベントについては今のところ計画通り実施をいただいているという状況でございますので、昨年度に比べて増額という方向で動いているという状況でございます。

10ページに進みます。最後に、今後の本事業における取り組みと目標という部分について3点ご紹介をさせていただきたいと思います。

まず1つ目です。午前中の利用者の増という部分です。

利用者の目標として年間7,000人というところを目指しているところでございますが、今年度と同等以上の方にご療育をいただければ引き続き目標達成していくことができるだろうというふうに考えております。

しかし、午前中の利用者数についてはどうしても学校もやってるという部分もありまして、課題となっているというところでございます。

そこに対する取り組みといたしまして、午前中の利用者数がほとんど未就学の親子であるという部分もありますので、未就学児親子のニーズの高いイベントを実施していく、未就学児親子が情報を受け取りやすい方法による情報発信、駐車場の検討等について行いたいと考えているところでございます。

続きまして2点目です。地域・多世代交流の活性化という点でございます。こちらやまもり様の方でご説明いただきましたが、地域で活動する団体との関わりを通じて、地域で子どもたちを守るまちづくりの一助となることを目指せれば、と考えているところでございます。

そして3点目、冒険遊び場事業そのものの周知です。この事業を広く知っていただくことが利用にも繋がっていくというふうに考えているので、各地域での公園等での月1回以上の出張冒険遊び場の実施や、これまで冒険をする場を実施したことのない公園等における実施についても、併せて検討していきたいと考えております。そして SNS 等の周知につきましては、先ほどご説明いただいた通りでございます。

引き続き皆様のご協力をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

以上で市からの報告も終わらせていただきます。以上でございます。

志村委員長

お疲れ様でした。ありがとうございました。

長時間になりましたけれどもたくさんの実績を発表いただいたかなというふうに思います。

それではここから質疑応答という形に入らせていただきます。ご質問あるいはご意見等ございましたらお願いをしたいと思います。

手を挙げていただくか、お声を上げていただいて、お願いします。

コロナ禍にしてはずいぶんしっかり活動ができていて、さらに入場者も増えていってすごい人気があるんですね。ちょっと安心しました。

ご質問等はよろしいですか。

出川委員

3年間、本当に皆さんの努力で内容の濃い子どもたちが主役になって、自由にのびのびと遊べる遊び場、あるいは子どもたちがチャレンジできる場所としてそういう目的に沿った形で、充実した内容に、この3年間でなってきている。

12月10日のオープンデー、伺いましたけれども、以前行ったときにはなかった建物の上の、さくら広場というふうに言いましたけれども、そこが綺麗に整備されて、子どもたち大人たち約30名、40名の方たちがいろいろな作業をしたり、ブランコで遊んだり、本当に内容の濃い、質の高い遊び、まさに冒険遊び場になっているというふうに強く感じました。

1つこれから気をつけなきゃいけないと思うのは、子どもたちもたくさん来るようになるのは、

それなりにいいことですけれども、やはり安全安心、それが基本であるということを忘れてはいけません。大人たち、子どもたちを見守る目というのをいつも考えながら、市役所と手を取り合って、急ぐ必要はない、ゆっくりでいいと思うので、少しずつ、子どもたちが大人になったときにあれがあったから今自分がある、いろんなものにチャレンジできる、いろんなものに興味を持てる、そんなふうに思えるような場になればいいと思います。いま十分組織としての成長期の初めにいて、これからは内容の濃い、質の高い安全安心をベースにした組織に育っていくこと、それが鎌倉の子どもたちをより良い形で育てることに繋がっていくんだろう、こんなふうに思っています。

皆さん、頑張ってください。本当にありがとう。

志村委員長

はい、ありがとうございます。

もうほとんど応援演説ですね。現場はとても嬉しいんじゃないかなと思います。

出川委員

先日行ってお話聞いたときに、峯山の会あるいは木を切ってくれる緑のレンジャーさんが手伝って、桜の広場や周辺の環境整備に協力していただいているというお話を聞いて、本当にいろんな鎌倉の市民活動団体が手を取り合って、冒険遊び場に関わってるということを聞いて本当に嬉しく思います。

志村委員長

はい、ありがとうございます。

現場行かれた感想とかでも結構ですが、ぜひお願いできればと思います。いかがでしょうか？

河野委員

鎌倉市社会福祉協議会の河野です。

まず、やまもりさんの丁寧なご報告ありがとうございました。これだけのことをやってるんだなと改めて聞くことができてすごくよかったです。

3年やって、段々その定着認知されてきたということで、実績もきっちり上がってきてるかなと思います。

12月10日にオープンデーに参加しました。そしたら出川さんいらっしゃってですね、一緒に山を登ったりしたのですが、本当に自然に囲まれて外で目いっぱい遊べる場所というのが、子どもさんもさることながら私もワクワクしちゃうような、そういう場所でした。

地域の方たちが見守ってくれて、近所の見たことのあるお父さんやお母さん、友達のお父さんお母さんがいるというところで、安心して目いっぱい遊べる、こういう場所が鎌倉というのは、やまもりさんとかが支えてくれてるおかげで、市がこういった事業をバックアップしてくれていることで、このような場が実現しているんだなというふうに思いました。

先ほど、出川さんがおっしゃったように地域ぐるみ、街全体で子どもを育てるということが、ここで見てとれるというふうに思ったのですが、峯山の会の方や、あとは矢澤工務店さんとか、そういった方たちと一緒に、この場所を盛り立てていくっていうことをやってらっしゃるので、非常にいいなと思います。

社会福祉協議会としては、鎌倉ボランティアセンターというところからイベントの方に、ボランティアさんを何人かご紹介することができました。そういったことで、ボランティアさんもこの活動に行ってみて、その後お話も聞いてみたんですが、すごく楽しかった、ボランティアさんもやってて充実感を感じたというふうに言っていました。先ほど報告の中で、中学生・高校生も参加してくれるような場になったら、と聞こえたんですが、例えば中学生のお子さんなんかにこのイベントのときにボランティアとして呼びかけをするということで、この場に参加してもらえるともう少し子どもさんの中でも世代の幅が広がるイベントができるんじゃないかな、というふうに思いました。

最後に質問があるんですが、出張冒険遊び場というのがすごくいいかなと思いました。報告の中で、地域の方を巻き込んで居場所を作っていくっていうことをおっしゃってたんですが、こういった冒険遊び場の方たちが地域の居場所の仕掛け役になって、地域の方を巻き込むということができたらと思いました。

具体的にはどういう方たちを巻き込んで、この出張冒険遊び場をされたかっていうところがちょっとお伺いできたらと思います。

感想と質問ということで、以上とさせていただきます。

協働事業者

私からご説明させていただきます。

今年、出張冒険遊び場で心がけていることということでお伝えをしたんですけれども、最初の海浜公園の方では、子育て支援グループ懇談会という子育て支援団体があるんですけれども、そちらの民生委員さんから、それぞれの地域でボランティアやご協力をよくされている方、また材木店だったら端材が置いてあるから持って行ってていいよっていうことをよく目にするということを教えていただいて、民生委員さんから地域の方に一度ご連絡を入れていただいて、私達から連絡がいきますというふうな形で、その後は私達から連絡をさせていただいて、このような出張冒険遊び場があるんですが、ご協力いただけないでしょうかというふうに伺ったりしておりました。

そちらの方で、海浜公園では戸井田工務店さんという工務店さんにお邪魔しまして、端材があるあるよというFacebook があり、よく持っていくんだよとお話を伺ったときにされていたので、それをぜひ出張冒険遊び場でお願いしますというふうな形でご依頼させていただきました。

社内検討していただいた後で、ぜひということで、とてもたくさんご提供いただきまして、子どもたちも大きなものを作っていったりして、とことん木工という日だったので、とてもそれに合った内容になったかと思いました。

その場での材料の提供はそのような形で、広町緑地でも同じように活動されている会社さんにコンタクトをさせていただいて、広町緑地の方では12月でしたので、クリスマスにちなんだ何かを、というような形でご相談差し上げたら、ちょうど今竹や端材の細かいものがあるので、こんなツリーみたいなものを作ってみようかな、というふうに逆におっしゃっていただいて、それをぜひお願いしますっていう形でご相談をさせていただきました。

実際にスタッフに入っていただく方は、子育て支援懇談会グループからお声掛けさせていただいて、自主保育の方々や各地域で活躍されてる方にお願いをさせていただきました。

自主保育団体の方や、民生委員の方、多岐にわたりますけれども、お手伝いしてもいいよという声をいただいて、ご説明を差し上げるという形にいたしました。

そのような形で、社協さんからも、実際ボランティアでこの2回とも参加をしていただいた石田さんと湯元さんという方がいらっしゃるんですけれども、改めてこんないい公園があるんだっというような感想をいただいたり、こんなふうに子どもたちの手伝いができるんだねということをおっしゃっていただいて、とてもあのいろんな形、いろんな人が繋がる会になっているなということですごく色々な意味での充実感があったと思います。

このような形で繋がり、ご連絡を差し上げております。

志村委員長

ありがとうございます。他の皆さんからご質問ご意見等ございますでしょうか。

もう非の打ち所がないですね。

少し質問よろしいですか。

非常に詳細なご報告をいただきました。やはりこういう細かい報告というのは、本当にきめ細かい活動をちゃんとやってらっしゃるという証明みたいなもので、読んでいて大変安心しますし、記録としてきちんと蓄積をしていただいているので、これを活かしてこれから先にまた新しい発展を遂げていくための材料としてもとても大事になっていくのかなというふうに思いました。

子どもたちへのアンケートですとか、こういうところの声はやはり正直なところが出てくるんじゃないかと思うんですが、皆さん充実した感じがあったかなと思います。

おっと思ったのが、子どものアンケートで、もう来ないっていう子がたった1人だけいて、圧倒的に少数なのですが、僕はどうも学生の相手をするとどうしてもそういう少数派の方が気になってまして。

どんな事情があるのかな、と思い自由記述を読んでいたら暴力をする女子がいるとあって、これも社会の中にいろいろあるなみたいな、少し感じたところですね。

こういう中で色んなことがあったときに、相談役になってくださるスタッフとか、そういう方とかはいらっしゃるんですか。

協働事業者

相談役を特に決めているわけではないんですけれども、今おっしゃったような、ちょっと友達同士のトラブルで喧嘩に発展したりとか、本当に仲のいい子と一緒に来るパターンも多いので、初めての子がすぐに仲良くなるっていう場所でもあるんですけれども、仲がいい子と一緒に来てそこで楽しいことをもすればちょっと悪くもしたり、いたずらしたりというような場所にはなってるので、やっぱり少しトラブルになることももちろん少なくはないです。

ただできるだけ子どもたちの中で解決をするような声かけをできるようにと日々いろいろ学んだりとか、スタッフ間で話し合って、あのときはああいう対応が良かったねとか、こういうふうにした方がよかったかなっていう話をしながら、その場にいるスタッフが本当に一お母さんとしての目線っていうのも大事にしながら対応をしているところです。

あの暴力をする女子がいる、というところなんですけれども、開館に来る6年生が結構グループで来る子が多いんですけれども、あの昨今の事情なのかやっぱり女の子が強くて、暴力を振るっている現場はあまり見たことはないんですけれども、対等に遊んでいるので、どうしてもそんなふうに発展することもあるのかなっていうような強さはあります。

それがここに出てるんじゃないかな、と思っております。なので仲がいい証拠なんだなっていうのを私達はここから読み取れとっているのですが。

志村委員長

男の子たちは大学生になっても、同じ年でもやっぱり女性の方がしっかりしてるようなところはございまして、男の子たちは大変だなと思いながらも、ひとつこれも社会勉強をできる場所としての素晴らしさはあるかなというふうに思いながら伺っておりました。

市との関係の中で出てきておりましたけれども、いま週4日やってらっしゃって、毎日できればなという声が1つありましたね。これは基本的には予算の関係とか、あるいは最初のお約束の中での取り組みの中なのかなというのが1つありました。

あと、出張でやってらっしゃって、それぞれの経験が活きていていいなというふうにも思ったんですが、もう一方で最初に、3年前4年前にも話がありましたけれども、例えば梶原以外の場所に2番目の施設ができるというようなことも、これだけ実績上がってくるとあるといいよねというのは、当然出てくるのかなというふうに思うんですが、ここ以外の可能性みたいなものは市の中での構想として、毎日できればというところに対してはどうか、というのと、将来の話としてここ以外の2つ目みたいなところの展望みたいなものはありうるのかなみたいなお話はどうでしょうか？これは市側に聞いてみたいところです。

事務局

はい、お答えします。

いま委員長おっしゃる通り、実はそういった要望は出ていますので、市としても検討はしてるんですけれども、予算と人数の確保の問題があります。

あと、場所ですね。なかなか適地がございませんので、引き続きの検討ということで、こどもみらい部でも取り組んでいるところでございます。

ですので、来年再来年すぐということはちょっと難しいかなというふうに思っております。

以上です。

志村委員長

はい、ありがとうございます。

場所、人、それから時間と当然予算という形があって、僕は鎌倉市の予算大変なのはよくわかっておりますので。ただ、すごくいいなと思いましたのは、現場からそういう声が上がってきて毎日やってもいいぐらいの要望があり、それからその期待に応えられるだけの活動をちゃんとやってらっしゃってるなという感じがあり、出張をやりながら、そういう声がまたあるということで、活動の1つ1つがですねやっぱり未来に繋がる次の可能性とか必要性っていうのをとてもよく示しているんじゃないかなというふうに思うんですね。

一方で、先ほどの地元の企業の方とか事業者との連携ということで、戸井田工務店さんのお話ありましたけれども、もしかしたら、例えばその予算の部分をそういうところの企業さんとの連携で解決をしていったり、それで拡大していくというような、ある意味やまもりさんなり、事業者自体が自立的に動いていけるような、市の補助を受けなくてもいけるような、そういうような仕組みにまで発展する可能性が見えてきているな、という感じがするんですね。

そういう意味では引き続き事業をこうやっていただきながら、何かそういうこの先に繋がるヒントになるような部分っていうのをぜひ別途記載をしておいていただいて、それを例えば私達も含めながら検討して何か先に繋げていく、先ほど言った場所や人、時間や予算の話っていうのをまた検討できるという、それだけしっかりした活動ができているということの評価の1つの大きな部分でもあったというふうに思っております。

そういう意味では本当にたのもしい、先々に繋がる大変貴重な活動されているなという実感を持ちましたので、一言お伝えさせていただきます。

ありがとうございます。

他にご質問等ございませんか。

礒部委員どうですか、校長先生としてのご参加もあったりと伺いましたが。

礒部委員

いつもありがとうございます。

子どもたちのために多くの方々が関わっていただき、そして温かく見守っていただいてありがとうございます。

3点ほど、いいなと思ったことをお話させていただきます。

この報告書の資料1の7ページのところに、６年生がすごく多いんですよね。そこがすごく魅力的かなと思っているのは、学童とかは段々大きくなってくると、友達もいっぱいできてきますし、広がっていくので、こういうところに来なくても遊び相手がたくさんいるし、習い事とかそういうことで来なくなるっていう、段々少なくなって高学年だと少なくなっていく、ここは逆に6年生がものすごく増えているっていうところで、やはり何か6年生にとっても本気で遊べる場所、そして自分たちがここにいる意味があるというか、居場所があるということなのかなっていうようなことを感じます。

この前も12月10日に、運動会の出し物をもう一度、各学年がやるっていうので、6年生が全部その対応をしたり、仕切っているというところで、いきいきと6年生がやっているっていうところで、高学年の子たちにとっても、ここに来ると自分の存在感がある、いる意味があると思わせてもらえるという場所がとても魅力的だと思いました。

２つ目はあの地域の方々も巻き込んでっていう、お母さんたちもたくさんいらっしゃってて、本当に自分たちの施設というか、自分たちの場所だっていうところを地域も思ってくださっている。そしていま教育実習とか来る大学生を見ていますと、必ず履歴書にボランティアをやっていますという子たちが多く、今までとは少し意識が変わって、子どもたちも学生さんたちも昔みたいにボランティアって何ですかではなく、ボランティアをやるということが自然になってきているので、大学生はちょっと時間もある人も多いのでそういう方々が、日中も取れるし、午前中の方もボランティアも入りながら、子育てのお母さんたちなんかもやれるっていうようなことも広がっていく可能性もあるかなと。地域を巻き込んでとてもいい広がりがあるな、というのが2点目です。

３点目が、お家に入れない、入れなくて逆に来た子なんですけども、逆に駆け込み寺みたいに地域のところで隣の家が火事になっちゃったとか、こわい思いをしたっていうときに、ここに行けば大人の人がいて安心だと思える、地域に助けてもらえる、逃げ場がある駆け込み寺で、安全を守ってもらえると思える、そこも素敵だな、ありがたいなって思いました。

以上です。

はい、ありがとうございました。

やまもりさん何かありますか。

協働事業者

はい、礒部先生ありがとうございます。

いろいろ見ていただいて、私達もまさにその点を感じていて、6年生は本当たのもしくて、私たちも行き届かないような下の子たちのケアというか、一緒にいて何かを叶えるということが当たり前になっている環境がとても素晴らしいなと思いますし、友達同士でその雰囲気ができているっていうのが素晴らしいなと感じています。

今どきの子なのか、やってることは将棋だったりとかドッジボールだったりとか、全然何も変わらないんですけれども、その友達同士で何かをやる作る、困ったことがあったらじゃあどうしようかっていうのを、いろんな学年の子たちと交えて実現していくっていうのが当たり前にやっているっていうところが私達も見てて、すごいなこの子たちっていうふうに感じます。

なので、中学生になっても来てくれるといいなって思っているのが今の私達の願いです。とても忙しいと思うので、声かけはしていきますけれども無理のない範囲で来てもらえたらと思います。

中学生になると、下の子どもたちもお姉さんたちお兄さんたちの目標になったりするところもあると思いますので、そちらはぜひ来てねっていうふうに言いたいと思います。

あとは最後の逃げ場のところなんですけれども、先ほどお伝えした話は小さな小学生だったんですけれども、以前帰る場所がわからなくなってしまったおばあさんがいらっしゃって、私達がいるので中には入らないんだけど、玄関先でちょっとお話を聞いて何回かお話を聞いて、いたことがちょっと安心に繋がったのか、何度かいらっしゃって最終的には娘さんが迎えに来たりとか警察の方にちょっとアクセスして、来ていただいたっていう形にはなったんですけれども、どうしようみたいなときに来れる場所っていうので、来ていただけたことをすごく私達もそういう点があるんだなっていう気づきになって、逆にこういう場所があるんだよっていうことを他の方にもお伝えしたいなっていうふうに思ったことでした。

なので小学校や中学校、高校、いろんな大人の地域の方にも知っていただく必要があるなというふうに感じた出来事でした。ありがとうございます。

志村委員長

はい、ありがとうございました。

子どもの遊び場じゃなくて、地域のよりどころになってるっていうところもできてきてとても素晴らしい施設になってるなという実感があります。

はい、ありがとうございました。ちょっと予定の時間をオーバーしておりますが、他にご質問ご意見いかがでしょうか。大丈夫ですか。

それではこのあたりで質疑応答は終了させていただこうかと思います。ここをもちまして、こども支援課からの説明は終了となりますありがとうございました。

それでは全体を通じましてご意見・ご質問等おありになる方いらっしゃいますでしょうか。いかがですか。

大丈夫でしょうか？はい、それじゃあちょっと時間も過ぎておりますので、本日の検討委員会はこれにて終了とさせていただきたいと思います。それでは事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

松本次長

長時間にわたりまして貴重なご意見いただきましてありがとうございます。今後も引き続きやまもりさんと協力して良い事業となるように、努めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして令和4年度2回目の検討委員会を閉会とさせていただきます。

今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。